

平成28年度 磯子区運営方針 期末振り返り

【達成度】 5:目標を大きく上回る成果が上がった 4:目標を上回る成果が上がった 3:目標通りの成果が上がった 2:目標を下回る成果に留まった 1:目標を大きく下回る成果に留まった

基本目標 地域の人たちとともに暮らすやすいまち・いそごを目指して ※達成度欄の【】内は中間期評価

取組事項		自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	期末期 委員の意見	達成度
(1)身近な地域で支えあう地域福祉や健康づくりの取組を推進します <福祉保健課 土木事務所>							
1 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	①第3期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」の推進	⇒ 取組についての情報共有ができる「地区別推進会議」の開催27回	開催数 30回	・開催支援や働きかけにより、予定どおり「地区別推進会議」が開催された。事例発表やグループワークを取り入れて情報交換するなど、各地区で工夫して開催され、推進組織や地区内の各単位町内会の取組状況の共有が図られた。また、取組の実施結果や現状の地域課題等を踏まえ、次年度に継続または新規・拡充する取組や方針等も検討できた。	3 【3】	・第3期スタートの一年目であるが、各地区で取組について情報共有がはかられた。	3 【3】
	②保健活動推進員によるウォーキングイベントの継続・推進	⇒ 全地区1回以上(全地区1回以上)	全地区 1回以上 (1回実施 6地区、2回実施 1地区、3回 1地区、5回1地区 計16回) ・実施人数 延べ502人	・保健活動推進員を対象に、ウォーキングイベントの企画・実施に関する内容を含んだ研修会を実施した(3日間【6/2・8・13】、延124人)。 ・全地区の保健活動推進員が、区内・市内の魅力を見出すコースを検討し、実施することができた。実施にあたって、保健活動推進員が下見等を丁寧に行ったことで、安全で円滑に実施することができた。活動の支援は保健師が行った。 ・昨年度(延べ470人)より多くの参加があり、「区内に魅力がある場所があることを知った」「みんなで歩くことで、楽しかった」などの声をいただく好評なイベントができた。また、参加者にウォーキングポイント事業の紹介を行い、ウォーキングを継続して実施いただけるような工夫も行った。地域をより知り、参加者同士の「つながり」を深め、ウォーキングによる健康づくりを進める場となっている。	4 【3】	・推進員の皆さんは、下見等も含めて良い活動ができてきていると思う。 ・保健活動推進員による、磯子みどころガイドマップを活用したウォーキングが各地区で活発に開催された。 ・参加者も増え、成果が上がっていると思う。 ・ウォーキングイベントは、いろいろなところで磯子みどころガイドを活用しながらやっており、非常に順調である。 ・保健活動推進員によるウォーキングイベントの研修会が6月にあったが、昨年以上に好評で、有意義なものだった。 ・保健活動推進員だけではできないこともあって、健康づくり係がフォローしてくれている。引き続き支援をお願いしたい。 ・元気づくり情報マップを利用して、区内の公共施設を巡るプランを入れてはどうか。	4 【3】
	③健康づくりにつながる施設整備	⇒ 歩くことが楽しくなるルート整備 1か所 健康公園の整備 2か所(1か所)	【歩くことが楽しくなるルート整備】 1か所(磯子駅～磯子アベニュー～磯子海の見える公園) 【健康公園の整備】 2か所(泉谷第三公園、磯子間坂第二公園)	【歩くことが楽しくなるルート整備】 ・ルートのメインとなる磯子アベニューにベンチを3基設置し、ウォーキングを楽しむ方が気軽に休憩できる環境を整えた。また、磯子駅～海の見える公園間(約1.8km)の歩道路面に、300m毎の距離表示標を設置し、目標をもって歩いていただけるように配慮した。 【健康公園の整備】 ・泉谷第三公園の再整備に併せて、健康遊具(背伸ばし器具)を設置した。 ・来年度予定している磯子駅～久良岐公園ルートの整備に先駆けて、磯子間坂第二公園に磯子駅及び久良岐公園までの距離と磯子駅からの標高差を示す表示標を設置した。	3 【3】	・目標通りに順調に整備がすすんでいるようである。 ・アベニューの小川はもう少し清掃してほしい。 ・磯子アベニューは、蚊の発生時期に小川が淀んでいるときもあったので、特に気を付けてほしい。 ・磯子の魅力アップのためにこれからも維持をしっかりとやってほしい。 ・区民のボランティアによる清掃はぜひ続けてほしい。 ・公園を利用している方々の意見も聞きながら、親しみやすく使いやすい公園の整備を進めてほしい。	3 【3】
(2)未来を担う子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進します <こども家庭支援課 生活支援課>							
1 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	①子育てサポートシステムの普及による地域ぐるみの子育て支援	⇒ 利用実人数の増加 月平均38人(月平均36.6人)	利用実人数 月平均35.25人 ・区内小学校へのちらし配布(5月) ・保育園でのチラシやカードの配架(通年) ・地域ケアプラザでの入会説明会の実施(通年) ・利用希望者の多い地区での提供会員募集を中心としたちらしの配布(7月) ・広報9月号での周知 ・利用希望者の多い地区での入会説明会の実施(9/17) ・いそびヨ見学会の実施(9/27) ・提供・両方会員予定者研修の実施(10/27・28・29)→9名参加うち6名登録あり ・学童合同説明会での周知(12/4) ・次年度保育所入所決定通知発送時にちらしを同封(1月末)	・利用ニーズのある層への周知に効果が出ており、利用会員数は年々増加している(H28年1月末431人→H29年1月末469人)。 ・昨年度に見られた要件(出産後の兄弟の預かりや、母の通院時の預かりなど)での利用が今年度はなく、利用実人数が昨年度よりも1割ほど少なかった。 ・子育てサポートシステムの利用相談があっても、相談者の利用ニーズにあった他の預かり事業(認可園で実施する一時保育や、親と子のつどいのひろばで実施する一時預かり事業など)を紹介することもある。今後もこうした利用者目線の情報提供を実施していきたい。 ・現在、マッチングができて利用をお断りするケースはないが、子育て世帯の転入や出生数が増加していることから、今後も利用ニーズは伸びることが予想されるため、提供会員の確保に向けて、今後も広報や研修等で周知を行っていく。	3 【3】	・利用実人数が減少ぎみのことなので、増加への努力が望まれる。 ・順調に周知が進んでいる。磯子区の「売り」になればよいかなと思う。 ・子育てサポートシステムでお子さんを預ける際の費用はもう少し安くならないか。 ・子育てサポートシステムについては、民間のサービスもあるので、そのようなことに関連して利用者が変動するものは、単に増やせばいいということでもないのでは、何が問題なのかを振り返ってほしい。	3 【3】
	②市立保育所を活用した保育資源ネットワーク構築事業の推進	⇒ 保育の質向上のための研修開催 15回(11回) 園児同士の交流 北部15回南部15回(北部13回、南部14回)	【保育の質向上のための研修開催】 17回(6/7,6/24,7/15(夕)(夜),7/25,8/29,9/13,9/14,9/28,10/14,10/26,11/8,11/14,11/14,11/18,12/6,12/12) 【園児同士の交流】 北部15回、南部43回	【保育の質向上のための研修開催】 ・「保育基礎研修」「救急法研修」「防犯研修」「保育環境研修」などを実施し、延べ576名が参加した。「少人数で密度の高い研修を受けることができ、内容の深まりを実感できた」「研修を通して連携機関とのつながりができた」などの感想が寄せられた。 ・各園の主任保育士や看護師、栄養士が交流したり情報交換をしたりする場を設定することができ、顔の見える関係が深まった。 【園児同士の交流】 ・園児同士の交流では北部で延べ32園、南部で延べ87園が参加した。散歩先を合わせて一緒に遊んだり、行事で積み重ねてきたものを見せ合ったり、ダンスやドッジボールをしたりなど、活発に交流ができた。	4 【3】	・園児同士の交流が盛んに行われていた。	4 【3】

取組事項			自己評価			事業評価委員の評価				
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期	達成数値／達成時期	期末期	振り返りコメント	達成度	期末期	委員の意見	達成度
1 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	③待機児童ゼロを目指したきめ細かな情報提供	⇒ 保育・教育コンシェルジュによる出張相談 24回(23回) 利用可能な保育施設等の紹介 保育児童全員	【保育・教育コンシェルジュによる出張相談】 30回 【利用可能な保育施設等の紹介】 保育児童全員	【保育・教育コンシェルジュによる出張相談】 ・地域子育て支援拠点や親子のつどいの広場等での出張相談を計画回数を増やして実施し、「保育所と幼稚園の違い」や「保育所以外の保育サービスは何か」など保護者の疑問にきめ細やかに答え、保育資源の情報を適切に提供することができた。 【利用可能な保育施設等の紹介】 ・保育児童全員に対して、年齢など個々の状況に応じて利用可能な認可保育所を手紙や電話で紹介することで、お困りの保護者に寄り添ったきめ細かい情報提供を行うことができた。	4 【4】	・目標通り、十分に対応している。 ・法人の都合により、突然閉園となった保育施設があったが、お困りの保護者の方に迅速に対応し、全員他園に入所できたことは、相当苦労したと思うし、評価を高めた。	4 【4】			
	④「はまっ子ふれあいスクール」から「放課後キッズクラブ」への転換	⇒ 「放課後キッズクラブ」の開設準備 4校(2校)	放課後キッズクラブの開設 4校 ・運営法人募集にかかる現場見学会 6月 ・運営法人応募受付 ～7月末(応募法人数 根岸小 2法人、浜小 3法人、洋光台第四小 3法人、森東小 5法人) ・選定検討会の開催 9月(根岸小 9/3、浜小 9/6、洋光台第四小 9/14、森東小 9/21) ・運営法人の決定 10月 ・保護者向け説明会開催 1～3月 ・放課後キッズクラブ開設 3/1～	・運営法人の選定にあたっては、それぞれの開設校ごとに、学校や地域の方々に構成する運営法人選定検討会を開催し、この検討会での意見を踏まえた運営法人の選定ができた。 ・3月に放課後キッズクラブが4校で開設され、区内で10校となった。保育ニーズの高い地域での受け皿の確保や開設時間が19時に延長されることで、留守家庭児童の放課後の居場所の拡充が図られた。	3 【3】	・放課後キッズクラブの開設は、共働き家庭の保護者からとても期待されている。学童を利用しているが、経済的な負担感もあり、早期の開設を望む声が多い。	3 【3】			
	⑤生活困窮世帯の子どもの将来の自立に向けた学習支援の実施	⇒ 寄り添い型学習支援「磯子ペンギん会」の開催 2か所 200回(2か所 102回)	2か所 200回 ・磯子地域ケアプラザ 計100回 ・洋光台地域ケアプラザ 計100回	・今年度から各会場ごとに、開催回数を週1回から週2回に増設した。回数が増えたことで、支援者との信頼関係も深まり、学習に取り組む習慣づけができた。 ・支援対象児童の心を耕す文化的な取組として、磯子音楽祭に参加した。芸術に触れる機会となり、また、参加した中学生は仲間と一緒に出かける体験そのものを楽しんでいく様子が伺え、一層充実した支援となった。 ・事業効果の検証のために、月1回、区役所と事業者の連絡会を実施しており、生徒の参加状況や学習状況の把握ができています。 ・来年度に向けて中学生が参加しやすい会場を1か所増やす準備が順調に進んだ。	4 【4】	・利用している中学校の先生より感謝の意があった。 ・ボランティアで学習支援を実施している団体等がどうやってニーズのある子どもと出会う工夫をしているかということ把握すると思う。 ・文化的取組に併せて、例えばたしがしら会館に協力を仰ぎ、バスケット観戦をしてはどうか。	4 【4】			
(3)高齢者や障害のある方が自分らしくいきいきと暮らすための取組を推進します <高齢・障害支援課>										
	①地域包括ケアシステム構築に向けたネットワークづくり	⇒ 地域ケア会議の開催 25回(25回)	地域ケア会議の開催 32回実施 ・個別ケース地域ケア会議 19回 ・包括レベル地域ケア会議 12回実施 ・区レベル地域ケア会議 1回	・個別ケース地域ケア会議については本格実施3年目を迎え、全ての地域ケアプラザで複数回実施している。 ・包括レベル地域ケア会議は5か所の地域ケアプラザで実施し、認知症や高齢者世帯を地域でどう支えるかを関係者間で検討、見守り体制の現状や課題の共有、団地の階段をテーマとした健康づくりなどの話し合いを進めることができた。3月末までに、全ての地域ケアプラザで実施される予定である。 ・11月には「軽度認知障害と初期認知症」をテーマに区レベル地域ケア会議を実施した。その中で、軽度認知障害・初期認知症にいかにか気づくか、どのように支援につなげるかが重要であり、気づきのための知識についての普及啓発を進めていくことになった。	4 【3】	・個別ケースや包括レベルでは、かなり具体的に議論し、効果をあげているが、区レベルでどうするかはこれから大変な問題になっていくと思うので、課題の工夫が必要ではないか。 ・地域ケア会議で現状の課題を共有することで具体的な支援につながると期待している。 ・地域ケア会議は、具体的な事例で身近なところに入りながら、深く突っ込んで進めていかないと効果が上がらないのではないかと。 ・地域ケア会議について、地域差があるというのが実感で、統一されたものができてくると良い。 ・ケアプラザ同士の横の交流の中で、良い活動をしているケアプラザの情報が他にも伝わるとより効果的。 ・地域ケアプラザのアクセスのしやすさが地域によって偏っていて、それに補完するような仕組みがあると良い。	3 【3】			
	②認知症高齢者への理解促進と地域の見守り体制づくりの推進	⇒ 認知症サポーターの養成 累計12,000人(10,817人) 認知症サポーターの高齢者支援ボランティア登録 50人 初期認知症の講演会開催 80人	【認知症サポーターの養成】 累計12,547人 【認知症サポーターの高齢者支援ボランティア登録】 登録者数 78人 【初期認知症の講演会開催】 参加人数96人(10月開催)	【認知症サポーターの養成】 ・各地域ケアプラザがキャラバンメイトと協働で住民や介護サービス事業所職員、小中高生を対象に養成講座を実施し、認知症の正しい理解の普及と地域の見守り体制づくりにつなげることができている。 【認知症サポーターの高齢者支援ボランティア登録】 ・ボランティア登録を進めるため、磯子区社会福祉協議会等とボランティア登録やマッチングの仕組みを検討し、「いそごオレンジボランティア」と名付け、10月にスタートした。事業を円滑に進めるため、ステップアップ講座を実施した。 【初期認知症の講演会開催】 ・96人の区民や関係者の参加を得ることができ、認知症予防や対応の理解を深めることができた。	3 【3】	・認知症サポーター養成講座は、キャラバンメイトがしっかりしていて、講座内容はだんだん良くなってきている。 ・ステップアップ講座は、次のボランティア登録につなげるために、広く広報して申し込みやすいようにしてほしい。 ・高齢者が増加している現状を考えると、認知症を正しく理解してもらうことが地域の中での見守り活動につながると思うので、継続してほしい。	3 【3】			

取組事項			自己評価			事業評価委員の評価					
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期	達成数値／達成時期	期末期	振り返りコメント	達成度	期末期	委員の意見	達成度	
1	ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	③高齢者の介護予防の推進	⇒ 元気づくりステーション活動支援 新規3か所・継続17か所 介護予防普及啓発講座・講演会の開催 参加者数3,700人 (3,679人)	【元気づくりステーション活動支援】 新規3か所立上げ・継続17か所支援 【介護予防普及啓発講座・講演会の開催】 参加者数 2,930人 【関連取組】 ・「ハマトレみんなのISOGO体操」のDVDを作成配付(12月) ・区庁舎の階段を活用し、健康づくりの啓発を進めるため「いそご健康階段」を設置した。 ※ハマトレ…横浜市が介護予防を目的に開発したトレーニング	【元気づくりステーション活動支援】 ・新規3グループが立ち上がり、高齢者が自ら介護予防に取り組む自主活動により、健康づくりにつなげることができた。 ・継続17か所についても、グループの自主活動が順調に維持継続できるよう、区や地域ケアプラザで支援を行い、各グループが積極的に体操等で介護予防の活動を行っている。 【介護予防普及啓発講座・講演会の開催】 ・講座や講演会を各地域ケアプラザ及び区で区民向けに実施し、栄養やロコモティブシンドローム予防などの普及が進んでいる。 【関連取組】 ・「ハマトレみんなのISOGO体操」のDVDを作成配付し、区民に身近なところで健康づくりに取り組める機会を増やした。 ・健康階段を設置したことで、健康づくりへの区民の関心を高めるきっかけづくりとなった。	4 【4】	・元気づくり情報マップの作成は、元気づくりステーションだけでなく、区内公共施設の情報もあり、シニア世代が外出するきっかけづくりとなる ・見守りはいつでも大事にしていきたい。 ・ケアプラザの支援により、効果をあげている。 ・元気づくりステーションは介護予防という形で体操を行うなど非常に良いことであり、ある意味では見守りにもつながっている。今までにない形で見守りが進んでおり、地域包括ケアにもつながるので、力を入れてほしい。 ・集合住宅等のセキュリティの問題で見守りができないことの解消として、元気づくりステーションのようなものは大事である。 ・地域で元気に住んでいくためには、出かける先があり、そこで仲間と会って活動でき、心も元気になるとより良いと思うし、その一つが元気づくりステーションであれば、さらに良いのではないかな。 ・健康階段を設置し、各踊り場に健康情報が書かれている。これからも有効で楽しめる情報の更新をお願いしたい。	4 【4】			
		④自分らしく生きることができるよう、自らの老後を考える機会の創出	⇒ エンディングノート書き方講座の受講者 累計7,800人 (6,920人)	エンディングノート書き方講座の受講者 累計7,739人	・講座を6か所の地域ケアプラザで実施し、老後の生き方を考えるきっかけづくりにつながっている。区役所では、10月19日に、講師神田織音氏を講師に招き、成年後見制度普及啓発講演会&エンディングノート講座を開催し67人の参加を得て、権利擁護に関する普及啓発を進めることができた。	3 【3】	・順調に浸透している。	3 【3】			
		⑤障害に対する正しい理解に向けた持続的な普及・啓発の促進	⇒ 啓発活動 15回 (13回)	啓発活動16回 ・磯子事業会行政懇談会で障害者差別解消法について周知(4/18) ・こすもすショップ(障害者施設自主製品販売)実施(4/20・21、5/18・19、6/15・16、7/20・21、8/17・18、9/21、10/19・20、11/16・17、12/21・22、1/18・19、2/15・16、3/15・16) ・自殺予防週間パネル展(9/10~16) ・広報よこはま磯子区版(11月号)特集掲載 ・障害者週間パネル展(12/5~9)	・障害者差別解消法が4月に施行され、事業所を対象に周知をタイムリーに実施することができた。 ・こすもすショップ(障害者施設自主製品販売)は毎月第3水木の定例販売として定着しており、区民と障害者のふれあいの場となっている。また、製品販売を通じて、地域の障害者施設の関心を高める機会になっている。今後も継続して実施していく。 ・自殺予防週間パネル展は、図書館と共催で実施し、双方の展示により関心を広げることができた。 ・広報よこはま11月号で、障害者グループホームについて特集し、障害者の地域での生活への理解を広げた。 ・障害者週間パネル展は、区内の障害者作業所等の紹介パネルとあわせて、障害者の作品を展示することで、足を止めて見ていただくきっかけになった。	3 【3】	・地域での理解を推進してほしい。 ・区民ホールの定例販売(こすもすショップ)は今後も応援してほしい。 ・障害者が増えてきており、大切な取組である。 ・障害者を地域全体で支えられるよう、各地区の行事への障害者の参加を積極的に呼びかけてはどうだろうか。	3 【3】			
2	魅力にあふれた住み続けたいまち	(1)地域の特色を生かしたつながりづくりの活動を支援します <地域力推進担当>									
		①地域の様々な団体が意見交換を行う場(コスモスミーティング)の開催	⇒ 各地区の意見交換の内容を区連会及び地区連で全体共有 10月	区連会および地区定例会で意見(要望)への回答報告と意見交換の内容紹介 10月 (10/17区連会、10/17屏風ヶ浦、10/18杉田・上笹下、10/20岡村、10/21根岸・磯子、10/22滝頭・汐見台、10/27洋光台) ・地区ごとに日程、参加者、テーマ等の調整 5月 ・9地区でコスモスミーティング開催 6~7月(6/17屏風ヶ浦、6/25汐見台、7/6岡村、7/13滝頭、7/20杉田、7/21根岸、7/22磯子、7/23上笹下、7/28洋光台 参加人数9地区:333人)	・テーマは、今年度都市計画マスタープラン・磯子区プランの素案を策定することから、各地区へ「まちづくり」の選定について検討を依頼した。 ・全地区で「まちづくり」をテーマに、自治会・町内会を中心にさまざまな立場の方に参加していただき、活発な意見交換が行われた。 ・区プラン策定に向け、各地区ごとの課題を中心に、広く意見収集を図ることができた。 ・区連会および地区定例会で意見交換内容を紹介したことで、区内での情報共有ができた。 ・次年度も、地域の課題を地域が解決できる場となるよう、活発な意見交換が行えるようなテーマ設定や参加団体の増加に向けて支援していきたい。	3 【3】	・各地区で実施され、都市マスの素案作成を行った。 ・テーマの統一も必要と思う。 ・ずっとやっているとやや形式的になってくる可能性もあるので、それぞれ課題を共有できるような形での運営の仕方もあるのではないかな。	3 【3】			
		②自治会町内会と地域の団体が課題解決に取り組む事業への支援及び情報の共有	⇒ 地域活動通信(仮称)の発行 4回	活動通信「つながる ひろがる」の発行 4回 ・6団体(継続4団体・新規2団体)に補助金交付(うち継続1団体は、12月交付)。また、交付終了後を見据えた情報提供等の支援を実施 ・地域運営補助金活用団体を紹介する活動通信「つながる ひろがる」を4回発行。創刊号(9月)、第2号(10月)、第3号(11月)、第4号(1月)	・交付6団体について適宜助言等を行い目的に沿った活動実施を支援することで各団体の活動充実につながった。 ・「つながる ひろがる」では、6団体の活動を紹介した。紙面には、団体メンバーのコメントとして、活動の成果や活動を通して感じたことなどを掲載し、他団体への参考となるよう配慮した。 ・平成29年度補助金活用団体の募集案内を広報よこはま、区HPのほか「つながるひろがる」第4号(1月)にも掲載し、次年度補助金活用について広く周知した。 ・今後も継続的に補助金活用団体の活動を紹介していくことで補助金の周知を図るとともに、活用団体の増加につなげていきたい。	3 【3】	・補助期間である3年を過ぎた後の継続が課題である。いきなり減らすのではなく、段階的にやるなど工夫してほしい。 ・地域運営補助金が3年で終了した後、うまく継続しているのか。継続するとなると、どういう形で継続しているかが分かったら良い。	3 【3】			

取組事項		自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値／達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	期末期 委員の意見	達成度
(2)地域のにぎわいづくりや活性化に取り組みます <区政推進課 地域振興課 戸籍課>							
2 魅力にあふれた住み続けたいまち	①第40回磯子まつりの開催	⇒ 来場者数 53,000人 (約53,000人)	来場者数 約54,000人 (9/25開催) ・パレード参加団体数 26団体、出店団体数 58団体、区民ステージ参加団体数 23団体 ・第40回磯子まつり部会開催 全7回 ・出店者、出演者、従事者説明会開催 5回(8月上旬～9月中旬) ・磯子区制90周年記念事業実行委員会開催 7回(5/11、6/29、9/8、11/7、12/2、1/12、3/6)	・磯子まつり振興委員会のメンバーを中心として新たな委員を加え、磯子区制90周年記念事業実行委員会を立ち上げた。 ・今回は、地域の方からクラシックカーの展示の申し出があり、磯子まつりが地域に浸透していると感じられた。 ・課題であったパレードゴール地点の賑わいについては、ふあふあ(エア遊具)の設置やクラシックカーの展示により、お子さんだけでなく大人の方にも楽しんでいただき、賑わいをもたらすことができた。 ・来年の90周年に繋がるイベントとして「キャッチフレーズ募集」、「磯子区制90周年記念祝い隊メンバー・グループ名募集」を閉会式で実施した。 ・実行委員会において今年の磯子まつりの振り返りでは、「年々盛り上がりつつある」、「観客数も多く十分に楽しめてもらえた」というご意見をいただいた。来年度においても、アイデアを練り工夫し、区民が磯子区への愛着を持っていただけるよう90周年にふさわしい磯子まつりを実施していく。	4 【4】	・90周年記念事業に向け、良いスタートがきれたのではないかと。 ・各種団体が区制90周年に向けての取組を開始しており、区民の方々からの期待感も高まっている。 ・総合案内所はあるが、案内が十分にできていないように思う。せっかく来ていただいた方に対応できるよう、案内係の増員など、対策を考えるべき。 ・磯子まつりのパンフレットは、当日来た人に配るだけでなく、もっと早めに区民の方にお配りした方が、それを見て来場する人がもっと増えたのではないかと。 ・ふあふあやクラシックカーについては、子どもたちが喜んで帰っており、楽しんでいただけたのではないかと。 ・磯子まつりは年々にぎやかになって、良いお祭りになっている。 ・来場者数が約54,000人ということで、90周年に向けての弾みになったのではないかと。	4 【4】
	②第5回ISOGOダンスまつりの開催	⇒ コンテストの応募チーム数 41チーム以上 (41チーム)	コンテスト応募チーム数 61チーム ・開催周知 10月 ・参加チーム募集 10/17～12/9 ・審査員長と協議を行い、第5回ISOGOダンスまつりの概要を決定。 ・開催日程 予選会 1/22(日)、本選 3/11(土) ・コンテスト及び発表会参加チーム数 予選会参加チーム 本選参加チーム 小学生以下 24チーム 16チーム 中学生 13チーム 10チーム 高校生以上 15チーム 11チーム 発表会 25チーム	・事業自体の知名度が向上したことのほか、ダンスイベント情報サイトへの情報提供や募集期間を延長した結果、当初の予想を大きく上回る応募があり、コンテストの3部門すべてで予選会(1/22)を開催し、本選に出場するチームを決定した。 ・毎年多くの応募が集まる発表会については、1チームの持ち時間を短縮し出場枠を広げたため、抽選を行わず応募した全てのチームが参加できるようになった。(昨年度14チームから25チームへ) ・昨年度までは、各審査員が楽曲内の不適切な単語の使用や振り・しぐさを控えるよう指摘していたが、今年度は多くのチームが、自ら楽曲の不適切部分を編集して予選・本選に参加するなど、青少年の健全育成を主眼としたISOGOダンスまつりの主旨が浸透し、磯子区の目指すダンスイベントとして定着してきた。	5 【3】	・年々盛んになり、予想以上の応募数で、本選が楽しみである。 ・コンテストも定着してきており、チームを結成したメンバーが健民祭の休憩時間にダンスを披露してくれ、子どもたちも一緒になって踊るなど会場を大いに盛り上げてくれた。 ・応募チームの増加は、大きな成果だと思う。 ・磯子区でこういうことをやるのは、他の区の刺激にもなっている。 ・今回のダンスまつりは、内容のレベルの高さに驚きを感じたのと、昨年まで指摘されていた不適切な表現などは感じられず、ねらいとしていた青少年の健全育成に適っていたと思う。	5 【3】
	③商店街のにぎわいづくり	⇒ 商店街と連携したキャンペーンの実施 2回 (6回)	【商店街と連携したキャンペーンの実施】 2回(5/28、9/25) ※「磯子区商店街連合会 加盟店」のマークがある商店街店舗でお買い物した際のレシートと「商店街マップ」をお持ちいただいた方に「区商連オリジナルグッズ(マイクロファイバー傘カバー)」をプレゼントするキャンペーン 【商店街朝市開催】 7回(4/23・24、5/28、7/27、9/25、11/3、1/28、3/11) 【関連取組】 ・商店街掲出用フラッグの作成、掲出(約400店舗) ・商店街へのヒアリングの実施 15回(12/1、12/14、12/21、1/18、1/26、1/31、2月・3月で9回)	【商店街と連携したキャンペーンの実施・商店街朝市開催】 ・4月の商店街朝市は、地元企業の祭りに追加で参加し、商店街マップを活用したPRも実施できた(まつり全体来場者7,000人)。 ・5月の朝市では、キャンペーンとともに「ふれあい動物園」を実施し、多くの区民に商店街のPRができた(来場者450人)。 ・7月の朝市は、地元企業の夏祭りへ参加し、商店街マップを活用したPRを実施した。(来場者1,000人) ・商店街マップ配布の際、キャンペーンのチラシと磯子まつりのチラシ(商店街朝市同日開催)を配布しPRできた。 ・商店街朝市のチラシを、区内公共施設(ケアプラザ、地区センターなど)のほか、新たに横浜シーサイドラインの各駅へ配架をし、商店街朝市のPRを実施した。 【関連取組】 ・商店街と区役所の協働で商店街掲出用のフラッグを作成し、商店街や各店舗で掲出を行うことにより、商店街の活性化だけでなく、磯子区制90周年のPRにも繋がった。 ・商店街振興を図るメニューを検討するため、商店街へヒアリングを実施した結果、「店舗数の減少」、「お客さんの減少」、「店主の高齢化」等の課題が出ている。これらの課題解決のために、来年度は支援策を検討していく。	4 【3】	・商店街朝市は定着してきており、継続していくことが大切である。 ・出店がもう少し増えたら来場者も増えるかと思う。 ・全ての地区の状況は見えていないが、商店街にはもっと活気があっても良いと思う。	4 【3】

取組事項		自己評価			事業評価委員の評価			
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値／達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	期末期 委員の意見	達成度	
2 魅力にあふれた住み続けたいまち	④区制90周年に向けた事業の推進	⇒ 区の魅力PR動画の作成 祝「出生・婚姻」記念品贈呈 区の花コスモスを活用したPR	<p>【区の魅力PR動画の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区HPでの動画公開(2/7) 磯子区の見どころスポット紹介「Discover Isogo」 磯子区の歴史紹介「Isogo History」 祝「出生・婚姻」記念品贈呈 記念品アルバムと季節の折り紙シールを1250セット作成し、1月1日から配布を開始 【区の花コスモスを活用したPR】 ゴーヤの苗無料配布時に区の花コスモスの種を無料配布(5月/550袋) 区内公共施設、保育園、小学校へのコスモス普及啓発(5月～6月) コスモスの種を各課窓口配布(約700袋/6月～7月、約1000袋/3月～) 【90周年記念カレンダーの作成】 磯子区制90周年記念カレンダー磯子の四季2017発行(7万部、10月) 【磯子区制90周年祝い隊発足】 メンバー最終決定(1/22)、初披露(3/11のISOGOダンスまつり) 【90周年PR】 90周年PRポスター、キャッチフレーズステッカー、缶バッジ、懸垂幕、横断幕、のぼり旗、庁用車用ステッカー等 	<p>【区の魅力PR動画の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区の魅力が区内外に広く伝わり、磯子の街並みや風景、区内各施設など様々な魅力を紹介する動画となるような掲載内容とした。 関係施設等に協力を得ながら区内各所で撮影を進めた。動画を見て関心を持たれた方が実際にその場所に訪れてもらえるように、区ホームページの構成にも留意した。 【祝「出生・婚姻」記念品贈呈】 記念品アルバムに同封するため、区長あいさつ文のほか、日ごろ窓口に飾っていた、季節の折り紙の写真をシール化したものを作成し、写真に添えられるよう工夫した。1月末までの配布実績は、158件(出生97件、婚姻61件)で、受け取った方々に喜ばれており、区制90周年の周知やふるさと磯子を思い起こす機会となっている。 【区の花コスモスを活用したPR】 区の花コスモスとあわせて、平成29年が区制90周年であることを、区民に広く周知することができた。 【90周年記念カレンダーの作成】 カレンダーを広報よこはま11月号とともに全戸配布し、区制90周年の年であることと、美しい風景、懐かしい写真などの区の魅力を広く区民に周知することができた。 【磯子区制90周年祝い隊発足】 磯子まつり閉会式から募集を開始した「磯子区制90周年祝い隊」の「楽曲制作・ダンス振り付け・衣装制作」を各界のプロに協力をしていただけるよう調整を行い、メンバー募集については18名、グループ名募集については19通の応募があった。 祝い隊結成により、区民の皆様とともに90周年を盛り上げていく土壌を作ることができた。ISOGOダンスまつりでの初披露を皮切りに、今後も、杉田臨海緑地オープニングイベント等様々なイベントに出演し、区民の磯子への愛着や一体感を醸成していく。 【90周年PR】 磯子まつり閉会式で募集開始したキャッチフレーズについては、あらゆる機会を捉えて周知した結果、276通の応募があった。その後、実行委員会で決定し、賀詞交換会(1/5)において発表をした。 キャッチフレーズを区民に浸透させるため、ステッカーをデザイン作成し、区内の小中学生に配布したり、懸垂幕や横断幕を作成し、区庁舎や駅に設置するなど様々な場面で周知している。 	5 [3]	<ul style="list-style-type: none"> いろいろと工夫されていると思う。 90周年記念カレンダー「磯子の四季」は好評であり、全戸配布は良かった。磯子区の目玉として次年度も実施してほしい。 90周年記念事業の10/1の本番に向けた準備は整った。これからは、横断幕を活用するなど、各地区でのPRを展開してほしい。 共に90周年を迎える他の区と連携してもいいのではないかな。 90周年など、突発的で大きなイベントのときには当初予想していなかったことが出てくるので、見える形でPRするためにもその都度項目に入れてやっていくべき。 コスモスの花の普及について、例えば企業の敷地にコスモスを植えると、磯子区の企業だということ社員にアピールできる機会にもなり、検討したい。 コスモスの花が区民に見えるところに咲いていると、もっとアピールできるので、個々に配るだけでなく、地権者の協力を得て積極的に空いているところに咲かせるなどの取組が良いのではないかな。 コスモスについては、以前は駅前にプランターで置いてあり、綺麗だという意見があった。 	5 [3]	
	(3)温暖化対策やごみの削減、美化推進や緑の創出に取り組みます <区政推進課 地域振興課 こども家庭支援課 土木事務所>							
		①区民1人ひとりが取り組む脱温暖化行動やごみの削減の啓発	⇒ 磯子区環境行動推進本部が策定する行動目標の達成 ※平成28年度の行動目標 <通年の節電・省エネ> 区内スローガン「みんなで取り組もういそごエコアクション」の推進 <ごみと資源の総量> 39230 t (前年度比▲17 t) (原単位 638 g (同▲7 g))	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度磯子区環境行動推進本部総会にて目標設定(5/30)、自治会町内会に目標周知依頼(6/17) ゴーヤの苗の無料配布(1100鉢/5月)、公共施設におけるグリーンカーテン育成支援(区内公共施設60か所/5月) いそごこどもエコフェスタの開催(12/10、来場者約2,000人) <ごみと資源の総量>(推計値) 38,688t(前年比▲586t) (原単位636g 同▲12g) 	<ul style="list-style-type: none"> ゴーヤの無料配布は、昨年度より配付数を増やし、大好評だった。 打ち水応援隊を地域のお祭り等で実施し、参加者に涼しさを体感していただき身近なエコとして周知・啓発することができた。 環境行動啓発リーフレットは、総会で定めた目標と取組をより多くの区民に啓発するため、発行を昨年度の2,350部から13,000部に増加し、区内公立小中学校の全児童生徒数に配布した。同時に、環境に関するアンケートを実施した。 いそごこどもエコフェスタは、多くの企業・団体の協力を得て、魅力的なブースやステージイベントが実施できたため、参加したこどもたちが環境について考える機会となり、また、一日を通して賑わいのあるイベントとすることができた。 各地域でのイベントに出向いて、区民に声をかけ、ごみと資源の分別啓発を行った。 	3 [3]	<ul style="list-style-type: none"> 原単位が削減されていて、成果が上がっているように感じる。 生ごみの水切の実施についてはPRが必要。 総量は人口にもよるので、原単位を重視して考えていくべき。 	3 [3]
	②環境事業推進委員・3R応援隊などと協働した環境教室等の啓発活動の実施	⇒ 啓発活動 21回(21回)	<p>環境教室等の啓発活動 15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 3R応援隊の環境教室10回 環境事業推進員によるポイ捨て禁止・歩きたばこの防止啓発5回 ※上記以外に、3R応援隊による環境教室以外の地域まつり等での啓発活動を24回実施 環境事業推進委員・3R応援隊と協働して行なった啓発活動全体としては、計39回実施(3月末見込) 【関連取組】 資源循環局磯子事務所と行う環境教室 28回 	<ul style="list-style-type: none"> 3R応援隊と協働した環境教室の開催は、区内保育園等に周知したが、今年度は資源循環局磯子事務所と行う環境教室の要望が多く、10回の実施となった。 環境事業推進委員・3R応援隊などと協働した環境教室等の啓発活動としては、15回と指標の回数には満たなかったが、新たな啓発活動を企画・実施するなど、啓発活動全体としては内容の充実したものを多く行うことができた。 	4 [2]	<ul style="list-style-type: none"> 磯子事務所との出前の環境教室は、一人暮らしの高齢者向けには非常に効果的である。 環境教室は、一人暮らしの高齢者向けの勉強会で新たな刺激を受けているようなので、PRして他の自治会でやれるようにしたらどうか。ごみの分別などは高齢者にもっと啓発した方が効果があるのではないかな。 啓発という目的についてはトータルで達成できているという評価であり、来年度以降は環境教室に特化しているものを指標とするのは変更した方が良いのではないかな。 	4 [3]	

取組事項			自己評価			事業評価委員の評価	
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値／達成時期		達成度	期末期 委員の意見	
			期末期	達成数値／達成時期		期末期	振り返りコメント
2 魅力にあふれた住み続けたいまち	③まちに緑を増やす活動団体への支援	⇒ 市民活動団体への技術支援 7回 (7回)	技術支援7回 (5月、6月、7月、9月、10月、12月、1月)		3 【3】		3 【3】
	④全国都市緑化よこはまフェアを契機とした緑の創出	⇒ 聖天川沿い車道の緑化 1か所、駅前緑化 4か所 杉田臨海緑地での緑化推進 3月	【聖天川沿い車道の緑化】 ・聖天川沿い車道の緑化整備完了 1か所 【駅前緑化】 ・駅前緑化完了 4か所 ＜根岸・磯子駅＞駅前植栽帯に緑化フェアPR看板及び花壇を設置。 ＜新杉田駅＞駅近隣の杉田一丁目ふれあい広場に花時計を設置。 ＜洋光台駅＞駅前既存花壇直近に緑化フェアPR看板を設置。 【杉田臨海緑地での緑化推進】 ・植栽等設置の委託契約 (11/30) ・トビアリー・プランター設置完了 (3/26) ・杉田臨海部オープニングイベント開催 (3/26)	【聖天川沿い車道の緑化】 ・杉田臨海緑地に至る市道の歩道沿いに、訪れる人の目を楽ませる植栽帯の整備工事を実施。 【駅前緑化】 ・緑化フェア開催に合わせて、磯子区内でも人の集まるJR各駅前に花や緑の賑わいを演出する予定。 【杉田臨海緑地での緑化推進】 ・オープニングイベントでは植樹式やステージイベントを実施し、区制90周年と緑化フェアをあわせて広くPRする予定。	3 【3】	・区の緑化フェアと併せて市全体のイベントのPRも行って欲しい。	3 【3】
	⑤市立保育園で園児や地域の方々が花や緑に親しむ取組の推進	⇒ 季節の花の栽培 6月～10月 区役所での花の展示 1回 育てた花の種の配布 2回	【季節の花の栽培(6月～10月)】<各園の取組> 滝頭:ピオラ、黄花コスモス、ひまわり等の栽培展示 杉田:ナススタウム、コスモス、ひまわり等の栽培展示 東滝頭:パンジー、マリーゴールド、サルビア等の栽培展示 洋光台第二:サフィニア、ペチュニア、ケイトウ等の栽培展示 【区役所での花の展示・育てた花の種の配布】<4園共通の取組> ・土木事務所が作成した看板を各園フェンスに掲示(7月～) ・4園共通の「花いっぱい事業だより」を作成し、各園に掲示し保護者に事業を周知(10月・11月) ・保育教育施設紹介パネル展の際、各園で栽培した花を土木事務所が設置したツリーに展示し、種を配布(10月24日～11月2日)	【季節の花の栽培】 ・子どもたちと一緒に、種まきや水やりなどを行い、夏まきの花や緑の育成を体験し、楽しむことができた。 ・保護者や地域の方からは「きれいですね」「子どもたちが育てているのですか、驚きました」などの感想が寄せられた。 ・各園で子どもたちと一緒に土づくりをしたり春に咲く苗や球根の植え付けを行うことができ、3月25日から開催される「全国都市緑化よこはまフェア」に向けた気運を高めることができた。 【区役所での花の展示・育てた花の種の配布】 ・ドライフラワーや種は、作品の装飾の素材に利用し、保育園の行事等で展示することができた。 ・保育教育施設紹介パネル展では、一緒に展示していた花に足を止めた区民が多くいた。花を通しての会話がはずんだ。 ・近隣保育施設との園児交流時に、採取した種や育てた花を花束にしたものをプレゼントし、喜ばれた。 ・民間保育園及び幼稚園にも活動を呼びかけ、コスモスの種を配付し栽培を勧めするなど、活動を広げることができた。	4 【4】	・民間保育園や幼稚園にも活動を展開しており、土・草花等に触れ合うことは良い教育になると思う。 ・子ども達に緑化フェアのPRをしてほしい。 ・子どもたちにとって花を植えることなどは情操教育になるので、市立だけでなく他の保育園にも展開してほしい。	4 【4】
	(4)区の将来像を見据えたまちづくりに取り組みます <区政推進課>						
①横浜市都市計画マスタープラン・磯子区プラン策定に向けた区民との意見交換の実施	⇒ 磯子区プラン改定素案への活発な意見交換が行われている 9地区	全9地区で意見交換を実施(6～7月) ・改定素案を区選出議員に説明・意見交換(12月22日) ・改定素案に対する市民意見募集の実施(1月4日～2月3日) ・改定素案の市民向け説明会を2回実施(1月15日、1月23日) ・改定素案を区及び地区連合町内会に説明(1月17日～26日)	・9地区での意見交換により、各地区の固有な課題や要望を把握することができた。これにより住民意見を可能な限り反映した区プラン改定素案を策定した。 ・12月に公表した改定素案について、幅広い意見がいただけるよう、自治会町内会や区選出議員に説明等を行うとともに、記者発表や区内施設への配架など様々な広報活動に取り組んだ。その結果、75件の意見をいただいた。今後はいただいた意見を踏まえて改定原案の作成に取り組んでいく。	4 【3】	・都市マスの取組を浸透させることができ、多くの意見をいただいた。 ・若い人にも住みやすい街にもなってほしいので、できるだけ幅広い年齢層の意見を聞いてはどうか。 ・臨海地域の企業で働いている人たちにも意見を聞くのも良いと思う。	4 【3】	

取組事項		自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値／達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	期末期 委員の意見	達成度
(1)地域で取り組む自助・共助の取組を支援します <総務課 福祉保健課 生活衛生課 高齢・障害支援課>							
3 安全・安心で住みやすいまち	①安全・安心マップの作成	⇒ マップを作成した自治会町内会 50%以上 (47%)	マップを作成した自治会町内会 50% 83/166団体 ・平成28年度新規作成:4団体	・地域の都合に合わせた作成スケジュールの設定を可能としたことで、新規作成のニーズに柔軟に応じることが可能になった。 ・新規作成4団体のうち2団体では、完成したマップが拠点訓練時に活用される見込みである。残りの2団体は拠点訓練時点ではマップが未完成だったが、作成中のマップを訓練参加者に提示し、周知を図ることができた。 ・作成団体によるマップ活用では一定の効果が見られたが、応募団体の減少等の課題があるため、次年度からは地域防災拠点を単位としたマップを区が作成し、地域の防災訓練等における活用を支援することで、現行方式では作成に至らなかった団体における潜在的なニーズを取り込み、地域防災力の向上に繋げていく。	3 【3】	・活動の役割が広がっていくことは、活動が活きているということだと思ふ。 ・地域で活用が進んでいることをPRすべき。 ・安全安心マップを作成した町内会は、防災訓練のときに有効に活用しているようだ。 ・マップを作成した自治会町内会47%とあるが、実際に必要のない自治会もある。必要としているところは100%の目標でやっていくべきだが、数字だけで考えないで効果的な目標を立てられると良い。 ・マップを必要とする自治会町内会は何%あるかを母数にして指標を示しても良いのではないか。次年度はそろそろ枠組みを変える時期である。	3 【3】
	②地域や防災ボランティアと小中学校が連携した防災訓練等の実施	⇒ 10校(8校)	11校 ・岡村西部連合自治会の防災訓練に岡村小・岡村中の児童生徒が参加(岡村小180人、岡村中62人) 9/1 ・磯子地区連合町内会の防災訓練に岡村中の生徒が参加(6人) 9/4 ・根岸地区合同防災訓練に根岸中の生徒が参加(30人) 10/30 ・根岸中2年生を対象とした防災授業の実施 11/4 ・山王台小6年生を対象とした防災授業の実施 11/28 ・森東小、杉田小、さわの里小が全校単位で拠点訓練に参加 1月 ・浜中、汐見台中、森中、洋光台第一中の生徒が課外活動等で拠点訓練に参加 1～3月(浜中を除く3校は見込)	・第1四半期は広く呼びかけを行ったが、小学校と中学校、また地域によって状況の差が大きいことから、第2四半期は未実施の学校を中心に個別の働きかけを行った。 ・働きかけの結果、新たに山王台小学校で防災ボランティア団体の協力を得た防災授業を実施することができた。 ・杉田小学校で全校単位の訓練参加が実現したほか、従来より生徒の参加があった森中学校では新たに民生委員と生徒が協力した要援護者の安否確認訓練が行われる(3/12予定)など、連携内容にも広がりが見られた。	3 【3】	・いざ災害が起きたときには、中学生はすぐ力になるので、学校と連携していけるような働きかけをしていくべき。 ・少しずつでも中学生に意識を持って協力してもらえ体制を作っていくことが大事である。 ・防災訓練のときに、ペットの収容もやってはどうか。PRだけではなく、実際に訓練したほうが良いのではないかな。 ・個人情報の取り扱いや訓練の仕方などについては、成功事例から学んで他の地域に応用していくことも必要。 ・区全体の方針を自治会町内会にもよく説明するなど、区役所で道筋をつけると、地域の方々も動きやすいのではないかな。	3 【3】
	③自治会町内会での災害に備えた要援護者支援の推進	⇒ 自治会町内会の取組を進めるための取組事例のリーフレット作成 12月	リーフレットの作成 12月(2,000部) ・自治会・町内会への配付	庁内関係課が協力し、リーフレット内容の検討、ヒアリング先の選定及びヒアリングを実施した。イラストと取組写真の活用や、ヒアリングで把握した事例を取組段階ごとに掲載するなど工夫したリーフレットを完成させ、各自治会町内会に配付することができた。(配付は2月見込)	3 【3】		3 【3】
	④地域防災拠点訓練の支援	⇒ 地域防災拠点運営委員対象の講習会開催 2回(1回)	2回 ・拠点総会にて各運営委員長に実施概要を説明 6/23 ・第1回講習会開催(参加人数24人) 9/15 ・第2回講習会開催(参加人数20人) 10/25 【関連取組】 ・磯子センターへのWi-Fi設置(9/21) ・自治会町内会長交流研修会での被災地派遣職員報告(12/5) ・防災講演会(3/7)	・熊本地震の際、避難所における女性への配慮の不足が指摘されたことを踏まえ、女性の視点で見た避難所運営をテーマに第1回講習会を開催した。 ・HUG(避難所運営ゲーム)訓練を中心とする第2回講習会を開催し、運営委員のスキルアップを支援した。 【関連取組】 ・発災時のボランティアセンターに位置付けられている磯子センターにWi-Fiを導入し、地域防災拠点を含めた区本部運営における情報受伝達体制の強化を図った。 ・自治会町内会長交流研修会において、熊本地震の被災地支援に派遣された職員が、現地で体験した避難所生活の実情や課題等の報告を行い、地域における自助・共助の重要性を再確認していただく契機とすることができた。 ・市民生活や市内経済に大きな影響を及ぼすとされている首都直下地震をテーマとした防災講演会を開催し(3/7)、地域における防災・減災意識の向上を図った。	4 【3】	・訓練会が見学会的体験型になると良い。 ・会長交流研修会での熊本地震で派遣された職員のマスコミで報道されない話は非常に良かった。	4 【3】
	⑤災害時ペット対策の啓発促進	⇒ 災害時ペット手帳の配布 2,000部	緊急時&災害時ペット手帳の印刷3,000部、配布 2,400部 ・区内動物病院(17病院)に配布依頼(8月、各100部)および1,000部増刷し、追加配布中 ・地域防災拠点運営委員会、防災訓練での配布(12月～ 運営委員会出席:2拠点、防災訓練:4拠点参加、2拠点参加)	・マンション内で組織される飼主の会に配布することもでき、当初予定していた配布部数よりも多く配布ができた。 ・増刷を行い、追加要望がある動物病院へ順次配布を続けている。 ・また、ペット防災対策として、地域防災拠点運営委員会連絡協議会総会等で対策実施を働きかけた。その結果、拠点運営委員会や拠点防災訓練等でペット防災対策の必要性について説明の機会を得るとともに、ペット手帳の紹介、配布を行った。 ・今後、拠点防災訓練に参加を予定している1拠点では、拠点運営委員からの要望に合わせてケージトレーニングを取り入れたペット防災訓練を実施する予定である。	4 【4】	・他区には、このような案内が無かったように思う。取り組みは進んでいると感じた。	4 【4】

取組事項		自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH27実績	期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	期末期 委員の意見	達成度
(2)防災対策と発災時における体制整備に取り組みます <福祉保健課 土木事務所>							
3 安全・安心で住みやすいまち	①災害時医療訓練の計画的な実施	⇒ 10回(10回)	10回 ・区医師会等関係機関と連携した訓練 5/21、11/19 ・関係機関等による情報受伝達訓練 4/21、6/2、8/4、10/6、12/8、2/2 ・保健活動グループ災害時対応訓練 10/3 ・関東病院での災害医療合同訓練 2/5	・5月21日の医師会等との訓練については、熊本県に派遣された本市職員の保健師からの報告会を行い、参加した医師から好評を得ることができた。またデジタル簡易無線機を使った受伝達訓練を実施した。 ・11月19日の医師会等との訓練では、横浜市立みなと赤十字病院看護部長を講師とし、災害時医療連携のための地区を活用するDIG(災害想像ゲーム)という手法について講演会を実施した。磯子区の地域特性が良く理解できたと、好評をいただいた。 ・情報受伝達訓練は、隔月で実施できた。 ・2月5日に関東病院で、災害医療の専門医師を講師に招き、区医師会、区内医療機関と連携した災害医療合同訓練を実施した。	3 [3]	・医療計画を住民にPRすることが必要。	3 [3]
	②道路・公園のかけ防災工事の推進	⇒ かけ防災工事の着手 3か所<道路2か所 公園1か所>(3か所<道路3か所>)	かけ防災工事の着手 2か所 ・道路がけ1か所(岡村二丁目) 11月 ・公園がけ1か所(坪呑公園) 5月	・予定していた道路がけ2か所のうち、岡村二丁目については、設計期間の短縮により、翌年度の工事完了予定であったが年度内の完了とすることができた。もう1か所の杉田二丁目については、契約手続きの遅れにより、翌年度早期発注工事として4月に契約、工事着手予定となった。 ・坪呑公園については、予定通りに年度内に工事完了することができた。	2 [3]		2 [3]
(3)地域での食の安全を支援します <生活衛生課>							
	①地域でのイベントや配食サービス・昼食会等における「食品取扱いの自主管理」支援	⇒ 地域でのイベントや配食サービス・昼食会等における食中毒発生ゼロ	食中毒の発生ゼロ ・自治会・町内会を対象にしたイベントにおける食品等の取扱いに関する講習会を実施 5/30(午前・午後)延べ42団体、64人参加。 ・磯子まつり前に講習会を実施 8/2(午後・夜間)延べ39団体、42人参加。 ・講習会テキストを2000部印刷 ・ボランティアによる地域の配食サービスや昼食会における食品等の取扱いに関する講習会を実施 12/13、15 延べ16団体、39人参加。	・講習会や届出時の啓発が図られ、夏祭りや磯子まつりでは、食中毒の発生がなかった。また、帽子、マスク、手袋の着用など、ノロウイルス対策を指導し、餅つき大会でもノロウイルス食中毒は起こらなかった。 ・14年ぶりに改訂したテキストは、地域に持ち帰って活用してもらえるように、わかりやすくイラストを多用するなど工夫して作成した。 ・今年度は、配食ボランティア団体に加えさらに対象を広げ自治会・町内会にも呼びかけて講習会を実施した。参加者の衛生知識は高かったが、中心温度計を保有していない団体がほとんどであることがわかったため、今後は、現場でのより具体的な衛生指導を実施していきたい。 ・自治会・町内会へは、区連会でのお知らせをはじめ、案内はがきの郵送、関係者の会議に出席して呼びかける等の周知方法を工夫し、さらに多くの方に食中毒予防啓発を図りたい。	4 [3]	・昔から夏祭り等をやっている自治会町内会では、まだ徹底されていないようなところもあるので、気を抜かずに啓発活動を続けることが大切。 ・食中毒発生ゼロは講習会の実施が効果をあげていると思うので、今後も啓発活動に力を入れてほしい。 ・地域においても衛生意識は向上している。より具体的な衛生指導をきめ細やかに行ってほしい。 ・高齢化に伴い、地域の配食サービスなど、自治会町内会で行われることも多く、また、こども食堂などの取組をやりたいという声を聞くので、さらに地域において家庭の外で食事を作る機会が多くなっていくことが予想される。引き続き啓発活動を進めてほしい。	4 [3]

取組事項		自己評価		事業評価委員の評価
施策の柱	主な事業・取組	期末期 取組項目	期末期 振り返りコメント	期末期 委員の意見
おもてなしの心による区民サービス	(1)親切・丁寧な区民サービスを提供します <全課>			
	①窓口サービス等の満足度の向上（窓口満足度調査における「満足」「やや満足」の割合 95%以上）			<ul style="list-style-type: none"> 外部評価の報告会を課ごとに報告することは、課全体で共有できるので良いことだと思う。窓口対応は、どの階でも良いように思われる。 良い状態を維持していくのは大変だが、しっかりやっていたている。 どの階に行っても職員のみなさんが一所懸命に仕事をしている。
	<ul style="list-style-type: none"> 傾聴力の向上等を目的としたおもてなし研修の開催 応対マナー講座の開催 窓口外部評価の実施 	窓口満足度調査における「満足」「やや満足」の割合 97.3%（全市平均97.2%） <ul style="list-style-type: none"> 窓口満足度調査の結果を受けた報告会を開催（2/7）。 おもてなし研修：全5回を庁内マナー講師により実施（8/23、24、25、29、9/8、参加人数140人）。 応対マナー講座：全2回を外部委託により実施（8/2、8/9、参加人数26人）。 外部評価：約半数の課を対象に市民局による窓口外部評価を実施（5月）。98.2点で、全市平均を約3ポイント上回る結果。全課を対象に区独自の外部評価を実施（11月下旬～12月上旬）し、報告会を全体報告と併せ課ごとに開催（1/12、18）。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民局の窓口満足度調査では、目標の割合を達成することができた。 区独自の窓口外部評価について、今年度は課ごとに報告会を開催し、窓口業務を担当する職員が直接報告を聞く機会を設けた。「直接聞くことで自分事としてとらえることができた」という感想が聞かれるなど、このことにより職員一人ひとりに対して親切・丁寧な区民サービスについての意識向上を促すことができたと考える。 次年度も外部評価により磯子区の強み・弱みを全課で共有し、現場で活かせる実践的な研修や講座等を実施していくことで、引き続き区民サービスの向上を目指していく。 	
	(2)環境に配慮した快適な庁舎環境を整備します <総務課>			
	①LED照明やトイレ設備（温水洗浄便座）の整備	【LED照明】 <ul style="list-style-type: none"> 1階区民ホールに設置（11月） 2階廊下・ダウンライト、3階ダウンライトに設置（3月予定） 【温水洗浄便座】 <ul style="list-style-type: none"> 3階、5階に設置（12月） 4階、6階に設置（2月予定） 	【照明のLED化】 <ul style="list-style-type: none"> 29年度は3階廊下部分に設置予定である。以降、年間概ね1フロアずつ廊下部分のLED化を進め、平成32年度までに必要箇所のLED化を完了することを目指している。 【温水洗浄便座】 <ul style="list-style-type: none"> 29年度は1階及び7階に設置予定で、これにより全てのフロアに設置が完了する予定となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 庁舎のトイレがきれいに保たれており、感心している。
	②磯子区総合庁舎の電気使用量の削減	節電・省エネ対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 毎月の電気使用量を各課に情報提供し、節電・省エネを呼びかけ 空調温度の適正管理 使用状況や利用者に応じた減灯及び消灯 パソコンの省電力設定、使用していないOA機器等の電源オフ 	<ul style="list-style-type: none"> 電気使用量は、前年度実績から削減できた月があるものの、年度合計では若干の増加となってしまっている見込みである。 29年度以降も、空調温度の適正管理、各課への節電・省エネの呼びかけを引き続き行っていく。 	
(3)正確・迅速に事務を執行します <全課>				
①迅速・適正な会計経理事務の執行 <全課>	<ul style="list-style-type: none"> 経理担当者説明会（4月・24人参加） 検査員研修（5月・20人参加） 経理基礎研修（契約・支出事務編）（7月・18人参加） アルバイト・講師謝金事務研修（7月・23人参加） 補助金・公金外現金基礎研修（8月・8人参加） 公金外現金内部監査（11月・対象5課） 経理事務の自己点検【テーマ：歳計外現金受入の処理状況】（12月・対象全課） 日頃から、各課担当者に適宜指導や注意喚起を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会の実施や処理状況等の点検、日頃の注意喚起等を行うことにより、適正な会計経理事務の執行が図れた。今後も引き続き全課で取り組みを継続していく。 		
②国民健康保険等の適正な事務執行のための情報共有会の開催 <保険年金課>	<ul style="list-style-type: none"> 日常業務の中で起きた事務処理ミスに繋がるヒヤリハット事例の洗い出し（4月～8月） 他区で起きた事務処理ミスについて当区でも起こりうる可能性の検討（4月～8月） 上記について防止策の検討（9月） 防止策の実行（10月～）及び情報共有会の開催（10月～11月 4回） コンプライアンス推進委員会業務見直しワーキングに関する検討結果を共有（1月） 他区のコンプライアンス案件を共有（通年） 	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとに、日々の業務の中で起きたヒヤリハット事例や、他区で起きた事務処理ミスの事例について当区でも起こりうる可能性を話し合い、それぞれ手順等を見直すなど防止策を検討した。 検討結果を踏まえて、10月以降防止策を実行に移すとともに、情報共有会を開催し、防止策を課全体で共有した。 年間を通してコンプライアンス案件が2件と、昨年度の5件に比べて事務処理ミスを減少させることができた。 一年を通して他区のコンプライアンス案件を共有し、自区で起こりうる可能性を検証することで、職員一人ひとりが自区では発生させないという意識を深めることができた。 		

取組事項		自己評価		事業評価委員の評価
施策の柱	主な事業・取組	期末期 取組項目	期末期 振り返りコメント	期末期 委員の意見
おもてなしの心による区民サービス	③市民税・固定資産税等市税の適正な課税 <税務課>	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度定期課税において適正な課税を実施 固定資産税:4月、軽自動車税:5月、市民税:6月 ・固定資産税30年度評価替えに向けた準備 財政局への資料提供や近接区等との調整会議を実施 ・市民税:過年度分等の修正(更正)申告等に伴う異動処理、扶養是正処理に係る支払者及び他市町村への照会、実地調査などの未申告者等調査 ・固定資産税:①新築家屋調査、滅失家屋調査、②土地全筆調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度定期課税及び例月処理において適正な課税を行い、賦課誤りは発生していない。また、窓口や電話では迅速丁寧な対応を行っている。 ・市民税未申告者等調査などにより市税の増収に繋がった(約8,500万円)。 ・固定資産税では、例月の新增築家屋調査(512件)のほか、滅失家屋調査(531件)、土地全筆調査(約10,000筆)を完了した。 ・市民税29年度定期課税事務を着実に実施している。 ・29年4月の納税通知書発送に向けて固定資産税29年度定期課税事務を着実に実施した。 	
	④道路・公園等の改善・補修要望への迅速な対応と要補修か所の早期発見 <土木事務所>	<ul style="list-style-type: none"> ・改善・補修要望受付件数:1,931件(区分:区民) ・完了件数:1,564件(完了率:81%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路等の老朽化による要補修箇所増加や倒木危険、雑草の繁茂による通行障害に対応するため、昨年度に引き続き、担当者間の緊密な連携による迅速かつ的確な対応に努めた。また、他部署とも積極的な連絡を図り、スピーディーな要望対応を図った。 	